

改正後	改正前			
日本農林規格 JAS 1607 : 2024 有機飼料 Organic Feed 1適用範囲 この規格は、<u>有機飼料について規定する。</u> (削る。) 2引用規格 次に掲げる引用規格は、この規格に引用されることによって、その一部又は全部がこの規格の要求事項を構成している。これらの引用規格は、その最新版を適用する。 JAS 1605有機農産物 JAS 1606有機加工食品 JAS 1608有機畜産物 3用語及び定義 この規格で用いる主な用語及び定義は、次による。 (削る。) 3.1有機飼料 箇条 5 に従い生産された飼料であって、原材料 [5.1 f)～i)のものを除く。] の重量に占める当該原材料に含まれる農産物（有機農産物及び有機飼料用農林産物を除く。）、乳（有機乳を除く。）、水産物及びこれらの加工品の重量の割合が 5 %以下であるもの 有機飼料の日本農林規格 (目的) 第 1 条 この規格は、<u>有機飼料の生産の方法についての基準等を定めることを目的とする。</u> (有機飼料の生産の原則) 第 2 条 有機飼料は、原材料である、有機農産物の日本農林規格（平成 17 年 10 月 27 日農林水産省告示第 1605 号）第 3 条に規定する有機農産物（以下「有機農産物」という。）、有機畜産物の日本農林規格（平成 17 年 10 月 27 日農林水産省告示第 1608 号）第 3 条に規定する有機畜産物（以下「有機畜産物」という。）及び有機加工食品の日本農林規格（令和 4 年 9 月 1 日財務省・農林水産省告示第 18 号）第 3 条に規定する有機加工食品（以下「有機加工食品」という。）の有する特性を製造又は加工の過程において保持することを旨とし、物理的又は生物の機能を利用した加工方法を用い、化学的に合成された飼料添加物及び薬剤の使用を避けることを基本として、生産することとする。 (新設) (定義) 第 3 条 この規格において、次の表左欄の用語の定義は、それぞれ同表右欄のとおりとする。 <table><tr><th>用語</th><th>定義</th></tr><tr><td>有機飼料</td><td><u>次条の基準に従い生産された飼料であって、原材料（次条原材料の項基準の欄 6 から 9 までに掲げるものを除く。）の重量に占める当該原材料に含まれる農産物（有機農産物及び同欄 2 に掲げるものを除く。）、乳（有機乳（有機畜産物のうち乳をいう。以下同じ。）を除く。）、水産物及びこれらの加工品の重量の割合が 5 %以下であるものをいう。</u></td></tr></table> - 1 -	用語	定義	有機飼料	<u>次条の基準に従い生産された飼料であって、原材料（次条原材料の項基準の欄 6 から 9 までに掲げるものを除く。）の重量に占める当該原材料に含まれる農産物（有機農産物及び同欄 2 に掲げるものを除く。）、乳（有機乳（有機畜産物のうち乳をいう。以下同じ。）を除く。）、水産物及びこれらの加工品の重量の割合が 5 %以下であるものをいう。</u>
用語	定義			
有機飼料	<u>次条の基準に従い生産された飼料であって、原材料（次条原材料の項基準の欄 6 から 9 までに掲げるものを除く。）の重量に占める当該原材料に含まれる農産物（有機農産物及び同欄 2 に掲げるものを除く。）、乳（有機乳（有機畜産物のうち乳をいう。以下同じ。）を除く。）、水産物及びこれらの加工品の重量の割合が 5 %以下であるものをいう。</u>			

3.2

有機農産物

JAS 1605 の箇条 5 に従い生産された農産物（飲食料品に限る。）

3.3

有機畜産物

JAS 1608 の箇条 5 に従い飼養された家畜若しくは家きん又は JAS 1608 の箇条 5 に従いこれらから生産された畜産物

3.4

有機加工食品

JAS 1606 の箇条 5 に従い生産された加工食品

3.5

有機乳

有機畜産物のうち乳

3.6

化学的处理

次のいずれかに該当する処理

- a) 化学的手段（燃烧，焼成，熔融，乾留及びけん化を除く。以下同じ。）によって，化合物を構造の異なる物質に変化させること。
- b) 化学的手段によって得られた物質を添加すること（最終的な製品に当該物質を含有しない場合を含む。）。

3.7

組換え DNA 技術

酵素等を用いた切断及び再結合の操作によって，DNA をつなぎ合わせた組換え DNA 分子を作製し，それを生細胞に移入し，かつ，増殖させる技術

3.8

飼料添加物

飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律（昭和 28 年法律第 35 号）第 2 条第 3 項に規定する飼料添加物

3.9

同等国格付飼料

日本農林規格等に関する法律（昭和 25 年法律第 175 号。以下“法”という。）第 12 条第 2 項に規定する格付の制度に基づき当該格付の制度を有する国等において格付された飼料のうち，次の事項が記載され，政府機関その他これに準ずるものとして主務大臣が指定するものによって発行された証明書（法第 12 条第 1 項に規定する証明書をいう。以下同じ。）又はその写しが添付されているもの

- a) 証明書を発行したものの名称及び住所
- b) 証明書の発行年月日
- c) 証明に係る飼料の種類及び量
- d) 当該飼料に係る生産行程管理者の認証に相当する行為を行った外国の機関の名称及び住所

(新設)	
(新設)	
(新設)	
(新設)	
化 学 的 処 理	<u>次のいずれかに該当することをいう。</u> <u>1 化学的手段（燃烧，焼成，熔融，乾留及びけん化を除く。以下同じ。）によって，化合物を構造の異なる物質に変化させること。</u> <u>2 化学的手段により得られた物質を添加すること（最終的な製品に当該物質を含有しない場合を含む。）。</u>
組 換 え D N A 技 術	<u>酵素等を用いた切断及び再結合の操作によって，DNA をつなぎ合わせた組換え DNA 分子を作製し，それを生細胞に移入し，かつ，増殖させる技術をいう。</u>
飼 料 添 加 物	<u>飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律（昭和 28 年法律第 35 号）第 2 条第 3 項に規定する飼料添加物をいう。</u>
(新設)	

e)	当該飼料について格付が行われたものである旨
3.10	有機飼料用農林産物 飲食料品に供されない農林産物であって、その有機飼料を製造し、又は加工する者によって JAS 1605 の箇条 5 に従い生産された農林産物 注釈 1 多年生の牧草等を生産する場合は、JAS 1605 の 5.1.2 a) の“多年生の植物から収穫される農産物にあつてはその最初の収穫前 3 年以上”とあるのは、“多年生の牧草等にあつてはその最初の収穫前 2 年以上”と読み替える。
3.11	石灰石等 石灰石、貝化石、貝殻、ドロマイト、りん鉱石及びケイソウ土
3.12	サイレージ 牧草等（乾燥して水分量を低下させたものを含む。）をサイロその他の適当な容器に詰め、又は包装し、乳酸発酵させて調製する飼料
3.13	転換期間中有機農産物 有機農産物のうち、JAS 1605 の 5.1.2 b) に規定する転換期間中のほ場において生産された農産物
3.14	転換期間中有機飼料用農林産物 有機飼料用農林産物のうち、JAS 1605 の 5.1.2 b) に規定する転換期間中のほ場において生産された飼料用農林産物
4	有機飼料の生産の原則 有機飼料は、原材料である有機農産物、有機畜産物及び有機加工食品の有する特性を製造又は加工の過程において保持することを旨とし、物理的又は生物の機能を利用した加工方法を用い、化学的に合成された飼料添加物及び薬剤の使用を避けることを基本として、生産する。
5	生産の方法 （削る。）
5.1	原材料 次の a)～i) のもの以外のものが使用されてはならない。 a) 次のうち、当該農林物資又はその包装、容器若しくは送り状に格付の表示が付されているもの（その飼料を製造し、又は加工する者によって生産され、法第 10 条又は第 30 条の規定によって格付されたもの又は同等国格付飼料にあつてはこの限りでない。） 1) 有機農産物 2) 有機加工食品（乳製品以外の畜産物を含むものを除く。以下同じ。）

（新設）	
（新設）	
サイレージ	牧草等（乾燥して水分量を低下させたものを含む。）をサイロその他の適当な容器に詰め、又は包装し、乳酸発酵させて調製する飼料をいう。
転換期間中有機農産物	有機農産物の日本農林規格第 4 条の表ほ場の項基準の欄 2 に規定する転換期間中のほ場において生産された農産物をいう。
（新設）	
（新設）	
（生産の方法についての基準）	
第 4 条 有機飼料の生産の方法についての基準は、次のとおりとする。	
事項	基準
原材料	次に掲げるもののみが使用されていること。 1 以下のうち、その包装、容器又は送り状に格付の表示が付されているもの。ただし、その飼料を製造し、又は加工する者により生産され、日本農林規格等に関する法律（昭和 25 年法律第 175 号。以下「法」という。）第 10 条又は第 30 条の規定により格付されたもの又は(4)に規定する同等国格付飼料にあつてはこの限りでない。 (1) 有機農産物 (2) 有機加工食品（ただし、乳製品以外の畜産物を含むものを除く。

h) <u>石灰石等及び化学的処理を行っていない石灰石等に由来するものであって、炭酸カルシウム、炭酸マグネシウム、リン酸二石灰、リン酸三石灰及びけい酸のうち化学的に合成された物質が添加されていないもの</u> i) <u>飼料添加物（抗生物質及び組換え DNA 技術を用いて生産されたものを除く。）のうち天然物質又は天然物質に由来するものであって化学的処理が行われていないもの（当該飼料添加物の入手が困難な場合は、飼料の栄養成分その他の有効成分の補給のために用いられるものに限り、当該飼料添加物に類似する飼料添加物を使用してよい。）</u>	8 <u>石灰石、貝化石、貝殻、ドロマイト、りん鉱石及びケイソウ土（以下「石灰石等」という。）並びに化学的処理を行っていない石灰石等に由来するものであって、炭酸カルシウム、炭酸マグネシウム、リン酸二石灰、リン酸三石灰及びけい酸のうち化学的に合成された物質が添加されていないもの</u> 9 <u>飼料添加物（抗生物質及び組換え DNA 技術を用いて生産されたものを除く。）のうち天然物質又は天然物質に由来するものであって化学的処理が行われていないもの。ただし、当該飼料添加物の入手が困難な場合には、飼料の栄養成分その他の有効成分の補給のために用いられるものに限り、当該飼料添加物に類似する飼料添加物を使用することができる。</u>
5.2 原材料の使用割合 <u>原材料「5.1 f)～i)のものを除く。」の重量に占める 5.1 c)～e)のものの重量の割合が 5 %以下でなければならない。</u>	原材料の使用割合 <u>原材料（この表原材料の項基準の欄 6 から 9 までに掲げるものを除く。）の重量に占める同欄 3 から 5 までに掲げるものの重量の割合が 5 %以下であること。</u>
5.3 製造、加工、包装、保管その他の工程に係る管理 5.3.1 <u>製造又は加工は、物理的又は生物の機能を利用した方法（組換え DNA 技術を用いて生産された生物を利用した方法を除く。以下同じ。）によることとし、5.1 i)のものをを使用する場合は、必要最小限度としなければならない。ただし、サイレージを生産する場合は、表 A.1 の調製用等資材に限り使用してよい。</u> 5.3.2 <u>原材料として使用される有機農産物、有機加工食品、有機乳、有機飼料及び有機飼料用農林産物は、他の農林畜産物又はその加工品が混入しないように管理を行わなければならない。</u> 5.3.3 <u>有害動植物の防除は、物理的又は生物の機能を利用した方法によらなければならない。ただし、物理的又は生物の機能を利用した方法のみによっては効果が不十分な場合は、表 B.1 の薬剤並びに食品及び添加物（これらを原材料として加工したものを含み、農産物に対して病害虫を防除する目的で使用するものを除く。）に限り使用してよい。この場合は、原材料及び製品への混入を防止しなければならない。</u> 5.3.4 <u>放射線照射を行ってはならない。</u> 5.3.5 <u>5.1、5.2 及び 5.3.1～5.3.4 に従い製造され、又は加工された飼料が農薬、洗浄剤、消毒剤その他の資材によって汚染されないように管理を行わなければならない。</u>	製造、加工、包装、保管その他の工程に係る管理 1 <u>製造又は加工は、物理的又は生物の機能を利用した方法（組換え DNA 技術を用いて生産された生物を利用した方法を除く。以下同じ。）によることとし、この表原材料の項基準の欄 9 の飼料添加物を使用する場合は、必要最小限度とすること。ただし、サイレージを生産する場合には、別表 1 の調製用等資材（製造工程において化学的に合成された物質が添加されていないものであって、組換え DNA 技術を用いて製造されていないものに限る。）に限り使用することができる。</u> 2 <u>原材料として使用される有機農産物、有機加工食品、有機乳及び有機飼料は、他の農畜産物又はその加工品が混入しないように管理を行うこと。</u> 3 <u>有害動植物の防除は、物理的又は生物の機能を利用した方法によること。ただし、物理的又は生物の機能を利用した方法のみによっては効果が不十分な場合には、別表 2 の薬剤並びに食品及び添加物（これらを原材料として加工したものを含み、農産物に対して病害虫を防除する目的で使用するものを除く。）に限り使用することができる。この場合においては、原材料及び製品への混入を防止すること。</u> 4 <u>放射線照射を行わないこと。</u> 5 <u>この表原材料の項及び原材料の使用割合の項の基準並びにこの項 1 から 4 までに掲げる基準に従い製造され、又は加工された飼料が農薬、洗浄剤、消毒剤その他の資材により汚染されないように管理を行うこと。</u>
6 表示 6.1 <u>有機飼料の名称の表示は、次の例のいずれかによる。b)又は c)の表示を行う場合は、“○○”には、当該飼料の一般的な名称を記載しなければならない。</u> a) <u>“有機飼料”又は“オーガニック飼料”</u> b) <u>“有機飼料○○”又は“○○（有機飼料）”</u>	<u>（有機飼料の表示の基準）</u> 第 5 条 <u>有機飼料の表示の基準は、次の例のいずれかにより名称を表示することとする。</u> (1) <u>「有機飼料」又は「オーガニック飼料」</u> (2) <u>「有機飼料○○」又は「○○（有機飼料）」</u>

c) “オーガニック飼料〇〇”又は“〇〇（オーガニック飼料）”

6.2 転換期間中有機農産物若しくは転換期間中有機飼料用農林産物又はこれらを製造若しくは加工したものを原材料として使用したものにあっては、名称の表示されている箇所に近接した箇所に“転換期間中”と記載しなければならない。

附属書 A
(規定)
調製用等資材

(削る。)

箇条 5 に規定されている調製用等資材を表 A.1 に示す。

表 A.1—調製用等資材

調製用等資材 ^{a)}	基準
海塩	二
岩塩	二
酵母	二
酵素	二
ホエイ	二
砂糖製品	二
蜂蜜	二
乳酸菌	二
酢酸菌	二
ぎ（蟻）酸菌	二
プロピオン酸菌	二
天然の酸	乳酸菌、酢酸菌、ぎ（蟻）酸菌又はプロピオン酸菌から作られたものに限る。
注 ^{a)} 製造工程において化学的に合成された物質が添加されていないものであって、組換え DNA 技術を用いて製造されていないものに限る。	

附属書 B
(規定)
薬剤

箇条 5 に規定されている薬剤を表 B.1 に示す。

(3) 「オーガニック飼料〇〇」又は「〇〇（オーガニック飼料）」

(注) 「〇〇」には、当該飼料の一般的な名称を記載すること。

2 前項の基準にかかわらず、転換期間中有機農産物又はこれを製造若しくは加工したものを原材料として使用したものにあっては、名称の表示されている箇所に近接した箇所に「転換期間中」と記載すること。

別表 1 調製用等資材

海塩、岩塩、酵母、酵素、ホエイ、砂糖製品、蜂蜜、乳酸菌、酢酸菌、蟻酸菌、プロピオン酸菌、天然の酸（乳酸菌、酢酸菌、蟻酸菌又はプロピオン酸菌から作られたものに限る。）

(新設)

別表 2 薬剤

(新設)

表 B.1－薬剤

薬剤 ^{a)}	基準
除虫菊抽出物	共力剤としてピペロニルブトキシサイドを含まないものに限ること。また、 <u>農産物</u> に対して病害虫を防除する目的で使用する場合を除く。
ケイソウ土	二
(略)	(略)
重曹	二
二酸化炭素	二
カリウム石けん(鹼)〔軟石けん(鹼)〕	(略)
(略)	(略)
ホウ酸	容器に入れて使用する場合に限ること。また、 <u>農産物</u> に対して病害虫を防除する目的で使用する場合を除く。
フェロモン	昆虫のフェロモン作用を有する物質を有効成分とする薬剤に限ること。また、 <u>農産物</u> に対して病害虫を防除する目的で使用する場合を除く。
カプサイシン	忌避剤として使用する場合に限ること。また、 <u>農産物</u> に対して病害虫を防除する目的で使用する場合を除く。
ゼラニウム抽出物	忌避剤として使用する場合に限ること。また、 <u>農産物</u> に対して病害虫を防除する目的で使用する場合を除く。
シトロネラ抽出物	忌避剤として使用する場合に限ること。また、 <u>農産物</u> に対して病害虫を防除する目的で使用する場合を除く。
注 ^{a)} 薬剤の使用に当たっては、薬剤の容器等に表示された使用方法を遵守しなければならない。	

薬 剤	基 準
除虫菊抽出物	共力剤としてピペロニルブトキシサイドを含まないものに限ること。また、 <u>農産物</u> に対して病害虫を防除する目的で使用する場合を除く。
ケイソウ土	
(略)	(略)
重曹	
二酸化炭素	
カリウム石鹼（軟石鹼）	(略)
(略)	(略)
ホウ酸	容器に入れて使用する場合に限ること。また、 <u>農産物</u> に対して病害虫を防除する目的で使用する場合を除く。
フェロモン	昆虫のフェロモン作用を有する物質を有効成分とする薬剤に限ること。また、 <u>農産物</u> に対して病害虫を防除する目的で使用する場合を除く。
カプサイシン	忌避剤として使用する場合に限ること。また、 <u>農産物</u> に対して病害虫を防除する目的で使用する場合を除く。
ゼラニウム抽出物	忌避剤として使用する場合に限ること。また、 <u>農産物</u> に対して病害虫を防除する目的で使用する場合を除く。
シトロネラ抽出物	忌避剤として使用する場合に限ること。また、 <u>農産物</u> に対して病害虫を防除する目的で使用する場合を除く。

(注) 薬剤の使用に当たっては、薬剤の容器等に表示された使用方法を遵守すること。